



# 年頭所感 2010

(社)日本印刷産業機械工業会 会長 小森善治

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年が、関係業界の皆様にとりまして、より良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

昨年のわが国経済は、金融危機に端を発した景気減速が前半を底として一部の業界で回復の兆しが見られました。しかしながら、印刷業界においては、印刷需要の回復が見られず、特にオフ輪の主要印刷市場であるチラシ、フリーペーパーの不振がマイナス要因となり、設備投資を延期する傾向が続きました。

このような環境下、平成21年の会員企業の出荷状況は、国内販売が70%弱、輸出が約35%と大幅に落ち込み、全体で対前年比50%を割り込みました。輸出は、円高の影響も大きく、北米や欧州の先進諸国だけでなく、これまで成長市場であった中・東欧及び周辺諸国においても、景気停滞と金融収縮の影響で設備投資への慎重な姿勢が続き、また、韓国・アセアン・インドなどのアジアにおい

ても、世界経済停滞、金融収縮、通貨下落の影響が継続しました。

本年は、まだ、景気回復が確かなものとなるかどうか不透明な状況ではありますが、中国市場は昨年後半より、受注が大幅な回復基調となりましたので、中国市場の活発化を足がかりに世界全体の景気が上向きに転じ、設備投資が活発になることを期待しております。

一方、昨年の私どもの業界活動として、委員会や部会活動を活発に行ない、また、調査研究事業では「印刷産業機械の機能安全に関する調査研究」を実施し、年度内を目処に作業を進めております。さらに、昨年10月に開催されたJGAS2009は、厳しい経済状況を反映して2005年と比較して出展社数で7割、小間数で6割の規模でしたが、入場者数は6万9,881人と予定を上回り、海外からも36カ国、1,469人の来場者があり、活気のある展示会となりました。また、ISO/TC130国際会議にも多数のエキスパートが参加し、日本の意見を

提案してまいりました。

このような中で、当工業会は、10月にJapanColor認証制度を立ち上げました。業界の関心は強く、標準印刷認証の第1期の申込は、日本全国の35工場よりありました。印刷物の品質を保証するためには、印刷機械のメンテナンスが重要であり、デジタル化のメリットを生かした数値管理が基本であることを認証制度説明会等で機会あるたびに申し上げております。このJapanColor認証制度による標準化の推進は、日本の印刷物の品質の底上げと印刷に関連する社会的コスト低減に貢献するものと考えております。

本年は、JapanColor認証制度として、さらに、マッチング認証、ブルーフ機器認証、ブルーフ運用認証を立ち上げる予定であります。

印刷産業機械業界を取り巻く環境はまだまだ厳しいとは存じますが、需要業界の皆様方には更なるご指導ご協力をお願い申し上げます。

## 「国民読書年」は業界PRの機会

## 視点の行方

「国民読書年」の2010年がスタートし、各地で読書推進をテーマとした行事が開かれている。日本において年齢や性別、職業等を越えて活字離れ、読書離れが進む中、読解力や言語力の衰退は精神文明の変質と社会の劣化を誘引する大きな要因の一つとなり得るといった危機的意識から、2005年の「文字・活字文化振興法」制定から5年にあたる本年を「国民読書年」と定めることが一昨年に全会一致で決議された。

(財)出版文化産業振興財団が実施した調査では、「4人に1人は1カ月に1冊の本も読まない」という読書習慣のない現代人の実態が明らかになっているが、活字や本に慣れ親しむ多くの機会が得られる本年は、これまであまり本を読む習慣のなかった多くの人たちが読書の楽しみを知る年となるだろう。

これまであまり本と親しんでこなかった人たちが自ら書店に足を運んで読みたい本を選ぶとき、重要なのは必ずしも本の内容だけではなくはずだ。本の外観である表紙のデザインや装幀はもちろん、文字組みやフォントの美しさ、本を手にした瞬間の感触など、間接的な部分もその人が今後本を好きになるか否かを左右する要因になるのではないか。

全日本印刷工業組合連合会では「メディアユニバーサルデ

ザイン(MUD)」に意欲的に取り組んでいるが、昨今では色と並んで重要なフォントの分野でも環境は整っている。いち早く普及に努めてきたイワタに加え、モリサワは「モリサワパスポート」によるUDフォントの提供を開始した。また、大日本スクリーン製造もユニバーサルデザイン対応フォントをリリースするなど、万人に読みやすいフォントが出揃っている。

また、全日本製本工業組合連合会はデザイン業界とのコラボレーションをスタートした。製本業界の技術革新も目覚しく、昨今では広開性や堅牢性に優れた新たな製本方式の「PUR製本」も浸透してきた。「国民読書年」である本年は、文字・活字文化の発展を支えてきた印刷産業が一般社会へ向けてその真価を発揮する絶好の機会とも言える。

ケータイ小説の台頭など、読書もデジタルとアナログが共存する時代に突入しているが、実物の本には電子書籍にはない良さがたくさんある。

世間が読書の大切さについて改めて考えるであろう本年。国民の今後の読書人生を支える業界であるとの気概を持ち、明るい気持ちで新年をスタートしていきたい。

印刷ジャーナル 2010年01月15日号掲載